

(5) - 2 教育研究面での国際化、国際交流事業、留学生支援、海外拠点の設置等の国際化に関する取組事例

- ・ 国際機関との学術・教育連携促進活動、海外企業からの受託研究の拡大等を通じて、世界的プレゼンスを高め、大学の研究成果の社会還元を国際的に展開することを目的として、平成 18 年度に米国・ロスアルトス市に開設した「東北大学米国代表事務所」に続き、中国・北京市に「中国代表事務所」を開設している。【東北大学】
- ・ 韓国語及び中国語のパンフレットの作成、台湾での「日本留学フェア」、東京での「外国人留学生のための進学説明会」の実施等により、留学生受入数の拡大を図っているものの、留学生数は減少傾向にあり、計画実現に向けた一層の取組が期待される。【茨城大学】
- ・ アジア・アフリカ言語文化研究所において、文部科学省委託研究「世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業」の「東南アジアのイスラーム」プロジェクトを推進し、ベイルートに続く海外研究拠点として、コタキナバル・リエゾンオフィスを開設している。【東京外国語大学】
- ・ アフガニスタンの復興支援に関し、「東京地区アフガニスタン大学情報交換会」の開催、大学間ネットワークの構築、文部科学省の国際協イニシアティブ教育協力拠点形成事業の委託による「日本の大学によるアフガニスタン高等教育復興支援」シンポジウムの開催等、積極的に復興支援を継続している。【東京農工大学】
- ・ インドネシアでの定置網技術移転を目指した「JICA 草の根技術協力事業」について、インドネシアの現地調査、定置網の敷設、インドネシア漁業従事者の技術研修等を実施している。【東京海洋大学】
- ・ 国際的に開かれた大学院を目指して、大学院博士後期課程の授業をすべて英語で実施するなど、バイリンガル環境の整備を進めている。【北陸先端科学技術大学】
- ・ 独立行政法人国際協力機構（JICA）受託研究員を東ティモール大学から受け入れ、技術研修を継続的に実施するとともに、東ティモール大学工学部支援プロジェクトに大学教員を派遣し、技術指導を継続的に実施している。【岐阜大学】
- ・ 「留学生 9 月入学プロジェクト」を立ち上げ、日本語と英語による基礎教育、日本語による工学教育、渡日前入学許可、企業の協力による就職支援等を内容とするナショナル・インターフェイスング・エンジニア育成事業を策定している。【静岡大学】
- ・ 産学官連携推進本部に「国際連携部」を設置し、特任教授 2 名、特任講師 1 名、特任助教 1 名を採用して体制を強化している。また、ノースカロライナ州ローリー市に海外事務所を設置し、特任教授 1 名と特任助教 1 名を勤務させている。【名古屋大学】
- ・ 「発信型国際技術者育成のための工学英語教育」をより体系的に発展させるため、3 年次の必修科目「実験・実習科目」において英語化を本格的に開始するとともに、

4年次選択科目「工学表現技術科目」における英語プレゼンテーション科目の授業を実施している。【名古屋工業大学】

- 大学における世界遺産教育を含めた教育の成果を国際的な連携の中で展開するために、ユネスコ活動への参加を企図し、世界の学校・教員養成機関がネットワークを組んでいる「ユネスコ・スクール」に日本の大学で最初の加盟校として承認されている。【奈良教育大学】
- 海外ファカルティ・ディベロップメント(FD)研修として、教員6名をノースカロライナ大学へ派遣し教育能力を高めるとともに、海外FD研修の成果や学外有識者による授業参観の報告の実施等、組織的な教員の教育能力の向上に取り組んでいる。【奈良先端科学技術大学院大学】
- 海外協定校等と連携した教育方法改善に向けた取組として、海外大学の講師によるオンライン授業科目の開設、海外大学の講師による集中講義を行っている。【広島大学】
- ロレーヌ工科大学(フランス)との間で、初めてダブルディグリー協定を締結し、学生が日本とヨーロッパの大学で認知された学位を持つことができるプログラムを実施している。【九州工業大学】
- 国際交流協定締結機関の韓国国立釜山大学校博物館や韓国国立民俗博物館と国際研究集会を開催。また、国際日本文学研究集会を毎年継続して開催し、海外研究者との研究協力・交流を推進することにより、日本文学研究の国際拠点的作用を果たしている。この他、世界の文化遺産保存事業における研修団を継続的に受け入れ、国際的パートナーシップを推進するなど、国際的な研究協力・交流の拡大と充実を積極的に図った。【人間文化研究機構】
- 平成19年8月に東アジア中核天文台連合(EACOA)の台長会議が中国国家天文台で開催され、平成20年4月からの3年間、EACOA事務局を国立天文台に置くことなど、本格的活動のための体制整備が進められた。平成20年3月には、国立天文台三鷹キャンパスにおいてアジア冬の学校を開催し、広く東アジアの若手研究者の交流と育成に努めた。また、日米科学技術協力事業及び日韓核融合協力事業では、日本側代表機関として、また、日中拠点大学交流事業では核融合研究の日本の拠点として、国際共同研究を推進した。この他、欧州分子生物学研究所(EMBL)との共同研究の中心実施機関として共同研究者の派遣、グループ共同研究、情報交換セミナー等の活動を推進した。【自然科学研究機構】
- 日米科学技術協力事業(高エネルギー物理学)に基づく日米高エネルギー物理学委員会における翌年度の事業計画の策定や、CERN(欧州合同原子核研究機関)との協定に基づき、代表機関としてアトラス日本チームを結成し、2008年の実験開始に向けて実験装置(アトラス測定器)の建設などアトラス実験への参加を行った。また加速器科学分野における国際的な拠点として、機構の内外プログラムを活用し、海外からの研究者の受け入れを積極的に実施するなど、国際的な活動を機構全体として展開。【高エネルギー加速器研究機構】

- ・ 南極研究科学委員会（SCAR）、南極観測実施責任者評議会（COMNAP）等の国際会議に参画し、南極観測事業の継続と国際共同研究観測を実施・推進した。また、学術情報ネットワークについて、国際連携としてスイスの GRID5000 プロジェクトに参画し、1Gbpsの国際接続環境を日米間の国際回線を利用して構築した。この他、米国並びに欧州と共同で国際塩基配列データベースを構築・提供するなど、国際的な研究機関として特色ある研究活動を実施。【情報・システム研究機構】
- ・ 独立行政法人国立高等専門学校機構の国際化に関する取組
- ・ 事例 1：海外への派遣と国際交流の状況
平成 19 年度、研修等の目的で海外へ渡航した学生数は 1、652 人、学会への参加や研究活動等の目的で海外へ渡航した教員数は 755 人であった。
国立高専と海外の教育機関との交流協定締結数は平成 19 年度末現在で 41 校 108 件となっており、このうち平成 19 年度に新規に締結された交流協定数は 11 件であった。
- ・ 事例 2：「国立高等専門学校機構在外研究員」制度
国立高等専門学校の教職員を海外の教育研究機関等に派遣し、先進的な研究や優れた教育実践に参画させることにより、教育研究能力の向上を図り各国立高等専門学校の教育研究を充実させることを目的とする「国立高等専門学校機構在外研究員」制度を「教育研究交流委員会」の下で平成 17 年度より発足させたが、平成 19 年度は、平成 18 年度より引き続いて派遣している教員 18 名に加え、新たに 22 名の教員を海外の教育研究機関等へ派遣した。
- ・ 事例 3：「エコテクノロジーに関するアジア国際シンポジウム」の開催
国立高等専門学校機構主催による「第 14 回エコテクノロジーに関するアジア国際シンポジウム」を、富山工業高等専門学校を主管校として、平成 19 年 10 月 6 日～7 日にかけて学術交流協定を結ぶ韓国の慶熙大学において開催し、日本、韓国及び中国の研究者を含め約 150 名の参加があった。
本シンポジウムは、大量消費、廃棄の時代から地球環境と共生した持続可能な社会構築のために必要な技術体制、すなわち「エコテクノロジー」に関して東アジアとの国際ネットワーク構築を目的としているもので、富山工業高等専門学校が主管校として毎年開催しているものである。
- ・ 事例 4：JICA プロジェクト「トルコ自動制御技術教育普及計画」への対応
JICA における海外技術協力プロジェクト「トルコ自動制御技術教育普及計画」を民間コンサルティング会社と共同企業体を結成して受注した。
本プロジェクトは平成 19 年～22 年の 4 年計画であり、トルコにおける自動制御技術教育の普及ならびに同国産業界における制御技術者の人材需要への対応を図るため、アナトリア職業高校のための「教員養成センター（TTC：Teacher Training Center）」の研修実施体制を整備することをプロジェクトの目的としている。
1 年目となる平成 19 年度は、各高専より技術協力専門家となる教員を募り、3 名の教員が現地アナトリア職業高校イズミール校へ赴き、「教員養成センター（TTC）」の設置のための骨格設計、カリキュラム、シラバスの作成などを行い、自動制御技術の教育体制・研修実施体制の整備を進めた。
高専機構としては、「教育研究交流委員会」の下に「JICA プロジェクト国内小委員会」を設置し、本プロジェクトの円滑な実施に向けて積極的な検討を行った。

- ・ 事例5：学生の海外派遣の促進
学生の海外交流については「教育研究交流委員会」の下で、昨年度に引き続き独立行政法人日本学生支援機構の発行する「海外奨学金パンフレット 2007～2008」を各学校へ配布し、海外留学のための情報提供に努め、活用の促進を図った

- ・ 事例6：留学生に対する学校の枠を超えた研修等の提供状況
「教育研究交流委員会」では、学校の枠を超えた外国人留学生に対する研修旅行の実施事例を全国の高専に周知し、積極的な取組を要請してきた。この結果、地区を基本とした外国人留学生に対する研修旅行が平成 19 年度は 9 地区において 225 名の外国人留学生参加の下実施された。
また、地区を基本としない取組でも、宇部高専と山口大学及び宇部フロンティア大学など、大学又は高校と合同の研修旅行が 2 組実施され、19 名の外国人留学生が参加した。
研修旅行では、歴史的施設や社会見学を通じて歴史・文化・社会を学ぶとともに、ウィンタースポーツの体験も組み込まれたものもあり、普段は交流する機会の少ない他校の外国人留学生との親睦を深められるよう工夫されている。
高専機構では、こうした留学生に対する学校の枠を超えた研修に対し、重点的な経費の配分を行い、各校での実施を支援した。
【国立高等専門学校機構】

(出典) 各法人の業務の実績に関する報告書より文部科学省が作成した資料から

科学技術理解増進活動に関する組織的な取組み

- ・ 大学博物館の開設・展示や研究施設の公開・科学技術に関するシンポジウム・連続した公開講座の開催・子どもたちを対象とした科学教室・高校への出前講座 など。
【北海道大学】
- ・ 小中学校教員を対象とした研修の実施科学技術振興機構の公募によるサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト、理数系教員指導力向上研修。【北海道教育大学】
- ・ 科学技術理解増進活動に関する組織的な取組み（H20 実施予定分） ・ 大学開放推進事業の開催「大学教員と楽しむ科学工作教室」,「プログラムで名前を彫ろう！」,「真空の世界を体験しよう(実験)」,「パソコンアートな団扇(うちわ)を作ろう！」,「ジュニアロボットスクール 2008 第1弾」,「ジュニアロボットスクール 2008 第2弾」,「ロケット・ジェット・飛行機わくわく教室」,「パソコンでクリスマスカードを作ろう！」 小・中学生を対象として、「科学」や「ものづくり」の楽しさを学ぶための体験活動講座を開催 ・ サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業による講座の開催「コンピュータ制御ロボットカー教室」 北海道室蘭聾学校の生徒を対象として、簡単な電子工作によりロボットカーを作製する講座を開催 ・ 地域科学技術理解増進活動推進事業による講座の開催「コンピュータ制御クリスマスツリーの製作」 伊達市との共催で、小・中学生を対象として、電子工作によりLEDを光らせるクリスマスツリーを作製する講座を開催 ・ 公開講座の開催「フォト&ビデオ デジタル編集入門」,「表計算ソフト初級講座」,「3次元CADと3次元造型機によるデジタルものづくり入門」,「日本刀の科学(入門講座)」,「オリジナル鋳物製風鈴の製作」 一般市民を対象として、生涯学習の機会や地域貢献の一環としての公開講座を開催 ・ 伊達市との共催による公開講座の開催「自然災害への備え」 伊達市との共催で、一般市民を対象として、防災研究の取組みを紹介しながら、災害に対してどのように備えるかを学ぶ出前講座を伊達市で開催 ・ 施設の見学等の実施 小・中学生を対象とした大学施設の公開、体験学習を実施 ・ 苫小牧信用金庫との共催による出前講座の開催「とましん子どもものづくり教室」 苫小牧信用金庫との共催で、ねじを加工してオリジナルのペーパーウエイトを作製する出前講座を苫小牧市で開催 ・ 理数系教員指導力向上研修事業の開催「実践的理科実験を活用した解かる教育方法の構築パート2」 理科教員を対象として、化学実験を実際に実施しながら、課題発見をとおしてマニュアルを共同作業で作成する研修を開催【室蘭工業大学】
- ・ 小・中・高等学校への授業支援（出前授業）・高大連携による体験学習・学校教育のキャリアアップ講座・科学技術・理科大好きプランの取り組み・教養講座、専門講座、市民開放授業の実施・市民を対象とした大学の高度な施設、設備を利用した体験的学習・研修会、講演会への講師紹介・展示や研究施設の公開（オープンキャンパス）【帯広畜産大学】
- ・ 公開講座の開催・派遣講座(地方公共団体等の求めに応じて本学教員が講演を行う)の実施・北海道メディカルミュージアム(医学、医療、福祉などの観点から、住民への遠隔教育、情報サービスを提供する)の実施・旭川市内の高等学校との連携に

よるSPP(サイエンス・パートナーシップ・プログラム)事業の実施【旭川医科大学】

- ・ 大学等開放推進事業「おもしろ科学実験」(小中学生対象)・サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーの一般公開「オープンラボ」・出前授業(高校生対象)・オープンキャンパス(高校生対象)・公開講座・環境教育推進事業(映画「不都合な真実」上映、環境パネル展)・インターネット安全教室【北見工業大学】
- ・ 連続した公開講座の開催・高大連携公開講座の開催・高校生を対象とした出前講義・サイエンス・パートナーシップ・プログラムの実施・化学への招待(高校生を対象とした1日体験化学教室)・楽しい科学(小・中学生とその父母を対象とした科学実験)・サイエンスへの招待(研究室や各種実験装置の公開、見える科学・技術の紹介、解説)・高校生対象の化学グランプリの開催(施設を提供)・農学生命科学部サイエンスパークの開設・農学生命科学部附属生物共生教育研究センターにおける親子体験学習の実施・遺伝子実験施設シンポジウムの開催【弘前大学】
- ・ 公開講座として、小・中・高校生・一般市民を対象とする実験講座や科学体験教室などの開催・科学技術に関するフォーラムや講演会、公開シンポジウムの開催・生涯学習フォーラムの開催・研究成果・製品の展示や科学実験を行うイベント「イーハトーブの科学と技術展」の開催・研究成果の技術移転を推進するための新技術説明会の開催(JSTとの連携)・小学生を対象とするロボットコンテストの開催・SPP(サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト)事業の開催・SSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)事業での岩手県立水沢高等学校への協力・エネルギー環境教育の展開(小学校等での環境教育の実施)・小・中・高校生を対象とする体験活動プログラム「環境と水」の開催・シニアサマーカレッジの開催【岩手大学】
- ・ サイエンスカフェの実施・公開講座等の開催情報の積極的なプレスリリース、ホームページへの掲載・東北大学イノベーションフェア 2007in 仙台・公開講座、公開シンポジウム、オープンキャンパス等を通して、地域住民との相互理解に基づく文化的な交流を図るため、学部及び研究官において、公開シンポジウム、公開講座、宮城県と連携したみやぎ県民大学、仙台市と連携した学都仙台による小中学校への出前授業、夏休み大学体験及び宮城県教育委員会との高大連携教典に基づく特別授業を実施した。【東北大学】
- ・ (教育文化学部)・天体望遠鏡による天体観察と解説・天文に関する講演会・講習会の開催・天体観測会(望遠鏡工作と天体写真撮影)の開催・オープンキャンパス(天文台見学)の開催・小学生を対象にした子ども農業体験教室・小中高年生に対する出前授業(医学部)・市民を対象とした秋田メディカル・サイエンスカフェの実施(工学資源学部)・附属鉱業博物館の開設・国際シンポジウムの開催・子どもロボット教室の開催・ジュニアサイエンススクール(植物化石採集と整理)・夏休み特別企画(リフレッシュ理科教室)・高大連携SIプラン推進プラン(秋田工業高校)・SSH大学研究室訪問(大館鳳鳴高校)(学術研究課)・ひらめきときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHI(研究成果の社会還元・普及事業)の実施(社会貢献・国際交流課)連続した公開講座の開設 自治体等と連携したサテライト事業の実施 市民向け講演会の開催 子ども見学デーの開催 秋田大

学学長企画シンポジウム「環境と共生」の開催 秋田大学 GAO (男鹿水族館) キャンパスの開催 平成 19 年度サイエンスパートナーシッププロジェクト:分子生物学 (サマー・オータム・ウィンター) スクールの開催 JAXA 連携事業 (講演会・子どもものづくり教室) の開催【秋田大学】

- ・ 定期的な公開講座の開催 ・小中学生向け理科実験教室の開催 ・高等学校等での出前講義の実施 ・子供向け農業体験等の教育活動 ・サイエンスサマースクールの開催 (高校生対象) ・高校生を対象とした定期的な実験教室の開催 ・トワイライト開放講座の実施 (一般市民に開放) ・高大連携事業の実施 ・高等学校数学教員との研究交流会の実施 ・ひらめき ときめきサイエンスの実施 ・サイエンス・パートナーシッププロジェクトの実施 ・展示や研究施設等の公開【山形大学】
- ・ (1)独立行政法人科学技術振興機構 平成 20 年度地域科学技術理解増進活動推進事業 地域ネットワーク支援 事業採択 企画名:「地域の自然と文化と科学にふれて学ぶ「ふくしまサイエンスぷらっとフォーム」の構築 概要:福島県中央部周辺に所在する科学館(3館)と県立の公設試験研究機関(4施設)と福島大学 連携して「科学技術理解増進活動」の拡大を目指すネットワーク基盤を構築する。(2)独立行政法人科学技術振興機構 平成 20 年度地域科学技術理解増進活動推進事業 地域活動支援 事業採択 企画名:「ふれて学ぶ地域の多様な自然と文化と科学」(内容) ・夏休み科学体験教室「サイエンス屋台村」の開催 (内容) ・地質学・科学技術に関する子どもシンポジウム (内容) ・子どもたちを対象とした科学体験教室 企画名:「身近な生活の科学 - 色の不思議を探ろう - 」(内容) ・子どもたちを対象とした科学体験教室 (3)福島大学地域貢献特別支援事業 企画名:「わくわく」r . カレッジ - 出前実験 - 」(内容) ・県内の学校や学習センターからの要請により、科学に関する多種多様な「出前実験」や科学技術に関する「実習指導」を実施する。 ・平成 19 年度から、小中高生向けの科研費研究成果公開事業である「ひらめき ときめきサイエンス」を実施している。【福島大学】
- ・ 各種展示会の開催 「文字をさわろう」「マヤ文明 - 世界は「四大文明」だけではなかった - 」 ・科学教室「キッズクラブ」の開催 ・サイエンスキャンプ等の開催 ・先端科学トピックスの開催 ・サイエンステクノロジーフェスタの開催 ・高大連携事業の実施 ・スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 事業への協力 ・科学セミナーの開催 ・ものづくり体験理科工作教室の実施 ・理科教員対象の研修の実施 ・学園祭に合わせて「日立未来シンポジウム」を開催 ・茨城県主催による高校生科学体験教室の受講生受入 ・生涯学習教育研究センター主催の公開講座及び公開授業の開催 ・農学部では、学園祭を利用して、各領域の研究内容をパネルで掲示し、来学者に研究内容とその研究がどのように社会に生かされているかを積極的にアピールしている。【茨城大学】
- ・ 「国立科学博物館大学パートナーシップ」へ入会し、学生の教育研究活動の高度化・活性化を促進。 ・第 49 回科学技術週間においては、筑波大バイオ e カフェ、免疫タウンミーティングつくば、伊豆半島サイエンスネットワークの実施、ノーベル賞・オリンピック関連の展示と数理物質科学の夢いっぱいポスター展、研究施設等の一般公開 (システム情報工学研究科構造エネルギー工学専攻、生物学類電子顕微鏡室、遺伝子実験センター、陸域環境研究センター) ・二酸化炭素の排出量半減とこれに関連した省エネ都市づくりに向けて、筑波研究学園都市内の諸研究機関が英

知と技術を結集して取り組むためのキックオフミーティングとして「第1回つくば3Eフォーラム会議」を開催。第1回会議で掲げられた「2030年までにつくば市の二酸化炭素排出量を半減させる」という目標の実現を目指し、のべ1000名の参加者が一堂に会して具体的なアクションプランを話し合う「第2回つくば3Eフォーラム会議」を開催。・公開講座として、一般市民を対象に「乳業工学実習」他15講座、高校生を対象に「海洋生物学入門」他2講座、理科教員を対象に「教員のための遺伝子組換え実験教育研修会」他4講座を開催。・本学を主会場の一つとして、2009年に茨城県つくば市で開催される「第20回国際生物学オリンピック」の日本代表選考を兼ねた第1回全国生物学コンテスト「生物チャレンジ2008」を実施。・下田臨海実験センターでは「伊豆海洋自然塾：海洋自然教育マイスターの養成」を実施。・朝永振一郎博士の功績を後続の若い世代に伝えていくために、小・中・高校生を対象に自然や科学への関心と芽を育てることを目的としたコンクールを行い、「科学の芽」賞を授与。・「筑波大学発 おもしろ理科実験・工作隊」(小・中・高等学校への出前授業)、「夏休み自由研究お助け隊」の実施。・本学と茨城県教育委員会との間で「筑波大学の授業公開等に関する協定書」を締結。県教育委員会、県内8大学、拠点高校との間で高大連携連絡協議会を設置し、高大連携の充実に向けた情報交換や課題について協議。・サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業の実施による教育活動の展開、高大連携事業の推進。・茨城県立竹園高等学校に対し、大学研究室体験研修や先端科学講話(出前授業)を実施。・生徒にも親しみやすい視点から科学や技術を理解するための基礎を学び、現職教員が研究者としての能力を養うことにより研究分野での専門性を重視しつつ、教師マインドを高めることを目的とした、「魅力ある理科教員になるための実験実習」(JSTの平成20年度「理数系教員指導力向上研修事業」に採択)を実施。・本学で生み出された研究・教育成果(学術論文・博士論文・研究報告書・教材など)を永続的に蓄積・保存し、インターネットを通してアクセスできるように公開する学術コンテンツデータベース、「つくばリポジトリ」の整備と拡大。(Webometrics Ranking of World Universities 発表の世界のリポジトリランキングで、世界第8位(国内第1位)にランクイン。)【筑波大学】

- ・ 公開講座の開催【筑波技術大学】
- ・ 科学技術シンポジウムの開催 展示や研究施設の公開 公開講座の実施 出前授業の実施 高大連携事業の実施 地域貢献事業の実施 夏休み科学教室の開催 大学博物館の開催(準備中)【宇都宮大学】
- ・ 群馬おもしろ科学展の開催 毎年8月に小・中学生を対象とした理科体験教室を学外で開催。・夏休み創作ロボット教室の開催 小学校高学年及び中学生を対象とした、レゴブロックによるロボットを作成し動かす体験教室を開催。・高校生を対象とした出前授業の実施 毎年、各高等学校に出向いて大学の授業の体験教室を開催。・小中学生のための医学研究者・医師・看護師体験教室 毎年8月に小学校5年生から中学校2年生までの児童・生徒を対象とし、医学・医療・ライフサイエンスに関する興味とヒューマニズムについて考える萌芽を育てることを目的とした体験教室を実施。・発明想像画コンクールの実施 小中学生を対象とした、こんなことができたらいいなという夢や発明をテーマとした絵画コンクールを実施。・ものづくり体験・おもしろ探検の開催(工学部) 小学校高学年を対象とした、ものづくり体験教室を開催。・一日体験化学教室の開催 高校生を対象

とした化学実験体験教室を開催。・ロボットと遊ぼうの開催 小学校高学年の親子を対象としたレゴブロックによるロボットcイベントを開催。・アルゴリズムで脳を鍛えようの開催 小学校高学年を対象とした数学的感性を磨くためのチーム対戦型の数理パズルゲームを体験できるイベントを開催。・テクノドリームツアーの開催 小さな子どもから大人まで楽しめる理科体験アトラクションを多数取り揃えた、年に一日限りの理科テーマパークを開催。・メカメカフェアの開催 身近なものから大学まで、おもしろいマシーンがたくさん展示され、体験できる、科学と技術にふれることができるイベントを開催。・エレクトロニクス体験教室の開催 小中学生を対象としたエレクトロニクスのおもしろさを肌で感じられる教室を群馬大学主催の理科体験教室の中で開催。・工学クラブの設置 工学系の各種イベント情報の発信、参加者からの意見収集等を行い、大学と小・中・高校の交流を盛んにし、地域理科教育の充実を目的に設置。・起業塾の開講 企業の経営者・経営を目指す方・技術者、起業構想者、創業者、学生等を対象に優れたベンチャーや技術経営人材を育成し、地域に活力をもたらすことを目的に毎年学内外で開催。【群馬大学】

- ・ 県立近代美術館と連携協定に基づくミュージアム・コラボレーション・プログラムの実施（教育学部） 地域の小・中学校と連携して”理科大好き先生の養成”プログラムの展開（実験、観察のスキルアップを目指して、大学、小・中学校・地域連携プロジェクト）（教育学部） オープンキャンパス等研究室公開（理学部・工学部） 中・高生に対する科学教室の開催（工学部） 高校生への出前講座（教育学部・理学部・工学部） 高校生対象の公開講座開設。【埼玉大学】
- ・ 理数大好き学生の発掘・応援プロジェクトの実施 ・未来の科学者養成講座事業の実施 ・高校生理学研究発表会の開催 ・高大連携理数教育重点校の協定提携 ・千葉理数教育高大連携ニュースの発行・パーソナルデスクラボ実験装置の高校への貸し出し ・高校生のためのサイエンスイベント調査及び広報活動 ・高校への出張授業（入試広報を除く）及び高校訪問 ・サイエンス・パートナーシップ・プログラム（SPP）の協力 ・千葉市科学館との連携による理数教育の実験講座実施 ・子ども達を対象とした出前講座 松戸市内の中中学生を対象に果樹の講義の実施 ・千葉大学オープンキャンパスにて物理学と物理教育に関する展示 ・下志津病院で子どもたちを対象とした「科学工作」教室を2007年度に8回実施 ・スーパーサイエンスハイスクール（SSH、大阪府立住吉高校）に対して遠隔実験授業を実施 ・2008年度千葉市科学館開催（JST 支援）の高校生向け科学教室開設に協力 ・2008年度より「未来の科学者養成講座」（JST 支援事業）を実施 ・連続した公開講座の開催 一般市民を対象に、カビに関係するテーマで平成17年から毎年公開講座を開催 ・展示や研究施設の公開 環境健康講演会や健康フェア、センター祭などのイベントの際、その他個々の要望に合わせて随時公開、柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）を介した研究活動の公開 ・科学技術に関するシンポジウムセンターの成果発表会や研究プロジェクトによる公開シンポジウム等の開催 ・連続した公開講座の開催 環境健康講演会および特別シリーズなど、地域住民向けの公開講演会の開催 ・サイエンスキャンプなどの教育活動 日本科学技術振興財団による高校生のためのサマー・サイエンス キャンプの開催 ・子どもたちを対象とした出前講座 特別支援学校、附属養護学校等における園芸療法などの講座 ・夏休み科学教室の開催 小中学生対象の夏休み薬草教室の開催 ・理科教員を対象とした研修の実施 ・千葉県立高校の理科等教員を対象とした環境健康学の実践研修会の開

- ・ 毎年行っている公開講座の開催 各研究所等で行っている一般公開等【東京大学】
- ・ オープンキャンパスの実施(部局によっては、高校生、大学生、社会人別に実施)・(独)科学技術振興機構の「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト」の採択を受け、小学生を対象に体験型の公開講座を実施している。・近隣の小学生(5、6年生)を対象に「子ども自然科学公開講座」を実施している。【東京医科歯科大学】
- ・ 留学生日本語教育センター教員による、夏休み科学教室の開催【東京外国語大学】
- ・ 多摩六都科学館との協定による共同事業を実施 地域の科学教育の発展を図ることを目的に以下の事業を実施 科学教育の普及を推進するための事業
科学を重視した地域づくりを推進するための事業 その他相互に必要と認める事業
平成20年度理数系教員指導力向上研修 理科嫌いをなくし理科の力量を向上させる実験・観察の創造 ミクロの生物「珪藻」から理解する河川環境の現在・過去・未来 学校で簡単に教えることができる組換えDNA実験【東京学芸大学】
- ・ 科学博物館の開設。・オープンキャンパスにおいて各種体験教室や模擬授業を実施。・高大連携校の生徒を対象とした「夏休み体験教室」を開催。・東京農工大学と地域を結ぶネットワーク事業の一環として、公開講座「子供たちと動物たちのふれあい授業」「小学生を対象とした稲作り体験」「子ども樹木博士」「子供科学教室」などを実施。・理科教員のための遺伝子組換え実験教育研修会を実施。・本学学園祭の時期にあわせて科学技術展を開催。【東京農工大学】
- ・ 東工大サイエンスカフェ・ひらめき ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI・高校生のための公開講座 2008「物理学最前線～素粒子から宇宙まで～」・小学生・中学生対象「夏休みサイエンス・クラブ 2008」・夏休み特別企画「地球とあそぼう 2008」・百年記念館展示室公開・Inter-COE シンポジウムなど【東京工業大学】
- ・ 資料館である「水産資料館」及び「百周年記念館」を一般に公開している。・学内で「セミクジラの全身骨格標本」や文化財に指定されている「雲鷹丸」及び「明治丸」の展示を行っている。・本学に関係する分野(海上輸送、食品の安全、海と地球温暖化等)について、公開講座を開催している。・複数の高等学校と高大連携による協定を締結し、本学教員による出張講義及び公開講座を実施している。【東京海洋大学】
- ・ 理科教員の研修会の開催・現職保育者及び育児支援事業従事者に対する研修会の開催・文京区、足立区との連携公開講座の実施・北区との中学生等との理科、英語、不登校児対策等の実施・館山市との小・中学生等の理科教育の公開実習等の実施・

アフガニスタン、開発途上国などで使用できる理科教材の開発・歴史資料館を設置
【お茶の水女子大学】

- ・ 「かながわサイエンスサマー」への参画 ・ 「サイエンスカフェ」「ぼくらのサイエンスカフェ」の開催 ・ オープンキャンパスにおいて各種体験教室を実施 ・ 公開講座の実施 ・ 小中学生向け公開講座「不思議いっぱい科学」「がやっこ科学教室」等の開催 ・ 高大連携事業の実施（高校への出張事業、高校生を招いての総合的な学習の時間の成果発表等） ・ 理科教育実習施設等を活用し、科学教育研究室として現職の理科担当教員の研修を実施。【横浜国立大学】
- ・ 「NUTテクノミュージアム」の開設 本学の技術科学に関する研究・教育活動の成果を展示し、社会との連携拠点として教育研究情報を広く学内外に提供する。また、半年に1回程度、約1ヶ月間、企画展を開催し、期間限定でスタッフによる解説も行う。 公開講座の開催（昭和58年から継続実施） 高度技術者研修の実施 地域企業等の現職技術者の再教育を目的に実施する。 長岡モノづくりアカデミーの実施 新潟県内の機械関連の開発設計に携わる技術者を対象に、開発設計の中核となる人材育成を目的に実施する。 技術開発懇談会 地域社会の積極的な技術開発の推進を目的に、地域企業等のニーズに基づいた話題について講演及び討論・意見交換を行う。 なおか市民大学への協力 長岡市が実施する一般市民を対象とした生涯学習事業に企画立案段階から参画する。 高大連携事業の実施 「中学校数学アカデミー（長岡市教育委員会主催）」への協力 「青少年のための科学の祭典（新潟県主催）」への協力 「中学校理科教員指導力向上研修（新潟県教育センター主催）」への協力 新潟県県立柏崎高等学校SSHへの協力 新潟大学教育学部附属長岡中学校SPHへの協力【長岡技術科学大学】
- ・ 子どもたちを対象とした出前講座の実施。【上越教育大学】
- ・ 生涯学習の一環として、広く地域の住民に学びの場を提供するために、毎年約70件の公開講座を実施している。開講に当たっては、受講者からのアンケートに基づき、ニーズの反映に努めている。また、富山県民生涯学習カレッジと連携し、本学の公開講座修了者に同カレッジの認定単位を付与している。これにより、例年約1000人の住民が受講し好評を得ている。また、正規学生に対する授業を可能な限り一般市民に開放するため、公開授業として毎年1000を超える科目を広く一般に開講している。例年、多くの受講者（平成19年度は336名）が受講しており、好評を得ている。中には高大連携の一環として高校生が公開授業を受講しており、高校生が大学の授業を体験できる機会を与えている。本学における公開講座及び公開授業の開講数は、国立大学の中で常にトップクラスであり、富山県における生涯学習支援に大きく寄与している。【富山大学】
- ・ 県民公開セミナーの開催 ・ ふれてサイエンス ・ てくてくテクノロジー ・ ものづくり教室 ・ ひらめきときめきサイエンス ・ 子ども科学財団との共同事業（海の自然科学教室）など ・ 角間の里山自然学校 ・ わく・ワーク体験活動（職場体験活動）の一環として大学教員の日常生活見学・体験 ・ 金沢大学理学の広場 ・ 公開講座 ・ ミニ講演 ・ MEX金沢への出展 ・ 北陸技術交流・テクノフェアへの出展 ・ しんきんビジネスフェアへの出展 ・ FITネット商談会への出展 ・ 地域企業を対象とした、「こまつものづくり技術シーズ発表会」の実施 ・ 学生を対象とした、

企業発表会の実施 ・ 学生を対象とした工場見学の実施【金沢大学】

- ・ 【地域住民等対象】 ・ 福井大学の地域貢献を推進する地域貢献推進センターが主導で各種の「公開講座」を実施。福井県の生涯学習事業である福井ライフアカデミーとの連携も行っている（平成 19 年度：38 講座、1、400 名余の参加者、アンケートでは平均 95%の満足度）。 ・ 大学の講義を一般市民に開放する「生涯学習市民開放プログラム」を実施（平成 19 年度：109 名受講）。 ・ 大学開放事業「福井大学一日遊学 in 文京」「福井大学一日遊学 in 松岡」を開催（4、300 名超の参加者、アンケートでは平均 90%近い満足度）。 ・ (独) 科学技術振興機構及び(独) 日本学術振興会の「科学技術の理解増進を図る事業」を実施（平成 19 年度：5 件採択、350 名余の参加者。平成 20 年度：3 件採択）。 ・ 北陸地区の国立大学が共同で開催する「北陸 4 大学連携まちなかセミナー」を実施。 ・ 展示会「福井震災ってなに?の巻」「おらが福井の自慢【眼鏡産業】+おらが福井大学の取り組みの巻」を附属図書館において実施。【小中高大連携】 ・ 福井県内高等学校と福井県立大学及び福井大学との間で「開放講義等に関する連絡協議会」を設置し、高校に出向き理系志願生徒に対する「出前講義」や高校が大学訪問する「開放講義」を実施。 ・ 高校生の資質をいかに伸ばすかという教育内容への支援を視野に入れた新しい形の高大連携活動として「工学部体験入学」を実施。高校生約 180 名が工学部 8 学科に分かれて 2 日間にわたって学習し、学習意欲喚起、問題解決能力やプレゼンテーション能力等の育成を支援。 ・ 日本学術振興会の受託事業「ひらめき ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHI」の実施。 ・ (独) 科学技術振興機構の「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト (SPP)」事業の実施（平成 20 年度：4 件採択）。 ・ (独) 科学技術振興機構の「理数系教員指導力向上研修」事業の実施（平成 20 年度：2 件採択）。 ・ 福井県と県内高等教育機関が協力して実施する大学連携リーグ事業において、小学校へ出向き「サイエンス寺子屋（巡回講義）」を実施（平成 19 年度：5 件）。【その他】 ・ 平成 19 年 9 月 28 日から、本学の学術論文等の様々な学術成果物を全世界に向けて発信する「福井大学学術機関リポジトリ」の一般公開を開始。このシステムは、本学教職員が執筆した学術雑誌掲載論文や研究紀要等の学術成果物をインターネットを介して学内外に発信するシステムで、これにより社会に福井大学の研究・教育活動の説明責任を果たし、またその成果を社会に還元することで地域貢献の推進、産学連携の促進が期待できることとなり、本学においても学術成果を一元的に保存することで永続的・効果的な集積を図ることが可能となった。今後は、本学だけでなく県内各大学等も取り込んだ地域共同リポジトリの構築を目指していく。【福井大学】
- ・ 県下高校生への公開授業（47 科目）の開催 ・ 高校・地方公共団体等からの要請に応じた出前講義 ・ オープンキャンパスの開催 ・ 公開講座の開催 ・ 市民開放授業の開催 ・ 読売新聞社との共催による連続市民公開講座（「今、地球に何が起きているか」）の開催 ・ リカレント教育講座の開催 ・ サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業講座型学習活動の実施（科学技術振興機構）中高校生を対象としたものづくりに関する講義と実習、工場見学等を行う。「木材を硬くしてお箸などを作ってみよう。」「環境問題を身近に考える実験教室」（工学部） ・ DO！サイエンスチャレンジ（文部科学省）女子中高生の科学技術分野に対する興味・関心を喚起し、理系への進路選択について支援している。（工学部） ・ 体験入学型オープンキャンパス「電子回路製作と最先端研究紹介」（工学部 電気電子システム工学科） ・ 「一日体験バイオ教室 2008」（工学部生命工学科） ・ 「クリスタ

ル体験講座 - 人工宝石を作ろう - 」(クリスタル科学研究センター)【山梨大学】

- ・ 科学技術に関する公開講座の開催 ・小中学生対象：親子天文教室、昆虫教室、化石教室 ・高校生のための体験実験講座 ・工学の最前線(シリーズ) 高校生向けのオープンラボの実施 中学生のための自然放射線実験講座の開催 中高校教師のための理科実験研修の実施 子供のためのものづくり教室の開催 岐阜大学の研究成果を発表するための「岐阜シンポジウム」を年2回開催【岐阜大学】
- ・ 小、中、高校との連携に向けた取組み ・サイエンスパートナーシッププロジェクト ・スーパーサイエンスハイスクール ・出張授業 ・きらめき ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～ ・「女子中高生の理系進路選択支援事業」・ものづくりセミナー(高大連携) 市民への教育サービス等に向けた取組み ・各種公開講座 ・市民開放授業 ・シンポジウム ・講演会 各種事業の実施 ・テクノフェスタ・イン浜松 ・サイエンスカフェ in 静岡 ・ものづくり理科地域支援ネットワーク：浜松 RAIN 房【静岡大学】
- ・ 静岡新聞社と共催で「輝いて生きる～長寿社会の健康学」をテーマに学長、理事及び教授、准教授 8 名が講師となり、市民公開講座を開催し、市民 850 名が参加した。 ・中日新聞社と共催で 12 名の教員が講師となり一般市民対象の健康科学セミナーを開催し 212 名が参加した。 ・本学単独主催の公開講座「健康安全のために知っておきたい話」を開催し、140 名が受講した。 ・中学生対象にカエルの卵の発生を観察するワークショップを開催した。 ・浜松西高等学校 2 年生の体験学習を受け入れた。 ・湖東中学校生徒の職場体験学習を行った。 ・県内高等学校に、静岡県スーパーサイエンスハイスクール運営指導員として教員を派遣した。 ・出前授業を県内の 4 校で実施した。【浜松医科大学】
- ・ 数学コンクール及び数理ウェブの実施 ・名古屋大学公開講座及び名古屋大学ラジオ放送公開講座の実施 ・他機関との連携による公開講座の実施 ・高大連携事業の実施 ・地域連携事業の実施 ・地域貢献特別支援事業の実施【名古屋大学】
- ・ サイエンス・サマーキャンプ(高校生対象)の実施 ・高大連携授業の実施 ・理数系教員指導力向上研修の実施 ・訪問科学実験(特色 GP 支援事業) ・大学版及び出前版ものづくり教室(特色 GP 支援事業) ・愛知県教育委員会「知と技の探求教育推進事業」(知の探検 講座)開講(高校生対象) ・科学ものづくりのイベント実施(科学・ものづくりフェスタ @愛教大)(特色 GP 支援事業) ・理科支援員等配置事業への理科支援員、特別講師の協力【愛知教育大学】
- ・ [産学官連携センター] ・テクノフェア ・サテライトセミナー ・知財活用公開フォーラム [地域貢献(瀬戸市)] ・名古屋工業大学サテライトキャンパス ・名古屋工業大学企業見学バスツアー ・名古屋工業大学ものづくり出張講義 ・名古屋工業大学の基礎技術習得プログラム [連続した公開講座の開催] ・極微デバイス機能システム研究センターが担当する「半導体ナノテクノロジー」は、例年一般市民 20 名を対象とする公開講座を開講している。発光ダイオード、太陽電池について講義と簡単な実験が体験できる。 ・電気電子工学科では、「この電子材料が 21 世紀の暮らしを支える - 電気電子工学・電子物性入門講座 - 」と題した公開講座を毎年開講し、

今年度で7回目を迎える。高校生30名を対象に8コースに分かれて電子材料を使用した実験が体験できる。・機械工学科では、例年工学物理に興味のある高校生約30名を対象に守備範囲の広い機械工学の現場を紹介している。テーマに分かれて、実験やシミュレーション等の実習を行い、ものづくりとその基礎の楽しさを体験できる。[夏休み科学教室の実施]・8月中の1日を利用し、小学生高学年40名を対象に「電気で遊ぼう!」「電池とモーターの楽しい工作」と題したものづくりの楽しさを体験させる公開講座を実施。手作り電池とコンデンサーを利用した充電式模型自動車の作成が体験できる。・8月中の3日間を利用し、本学技術部が主催する「ものづくりに挑戦!(未来への体験)」と題し、10テーマのものづくり等を、延べ100名の中学生に体験させる。電気、機械工作、化学、陶芸等幅広い体験ができる。[高大連携事業の実施]・愛知県教育委員会と連携した「知と技の探究教育推進事業」の実施大学として「知の探検講座」を担当し、講義、実験を行っている。昨年度の「知の探検講座」には、講義2件、実験4テーマに高校生各24名が参加、「知の探検コース」には2名が希望するテーマで実験などを実施した。・スーパー・サイエンス・ハイスクール(一宮、向陽の各県立高校)の協力大学として講義、実験講習を行っている。昨年度は一宮高校にて1テーマ、向陽高校にて2テーマ実施した。
【名古屋工業大学】

- ・ (1)(独)科学技術振興機構 サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP) 講座型学習活動プランA「豊橋技術科学大学情報講習会」 愛知県高等学校文化連盟自然科学専門部会との連携のもと、愛知県内の高等学校の自然科学系文化クラブ所属生徒を対象に、連続3日間情報及びコンピュータに関わる実験・実習講座を実施。平成14年度から継続して実施しており、平成19年度はSPP事業に申請、採択された。 講座型学習活動プランC「高校生のための技術科学講座-百聞は一験に如かず」 愛知県立時習館高校2年生約320名を対象に、豊橋技術科学大学において20テーマに分かれて実験実習を行い、その後、当該実験実習の成果をまとめ資料を作成し、成果発表を実施。平成16年度から継続して実施。(2)(独)科学技術振興機構 地域科学技術理解増進活動推進事業機関活動支援 Jr.サイエンス講座 地域の小中学生及びその保護者を対象に、平成15年度より豊橋市教育委員会との共催により、コンピュータ、ロボット操作、自然科学等に関する体験型実験・実習講座として実施。(3)(独)日本学術振興会「ひらめきときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~ KAKENHI」 科学研究費補助金による研究成果をわかりやすく発信することを目的として、小学生を対象に演習・実習を行い、学術に対する理解増進に寄与する。(4)一般公開講座 高校生以上の一般市民に対して、本学の最先端の研究内容の一端を紹介するとともに、社会的に関心の高いテーマを設定し、年6回実施。(5)東三河サイエンス・カフェ 市民と科学者との語らいの場であるサイエンスカフェを、地域の高校教員をゲストに、一般市民を参加者として実施し、地域の(生涯、社会)教育の発展拡充・科学技術理解増進に寄与する。(6)豊橋少年少女発明クラブへの出展 小学生を対象に、実験・実習を行い科学技術への興味・関心を持たせる。(7)市内小学校等からの要請による出前授業 小学校等で開催されるイベントへ教員・学生を派遣し、体験学習を実施。【豊橋技術科学大学】
- ・ 国際環境シンポジウム「四日市学」の開催。・「青少年のための科学の祭典」の開催。・教員養成学部フレンドシップ事業として、夏休み期間中に小学生を対象とした「子供科学教室」を実施。・高大連携事業の実施(サマーセミナー等)。

- ・ 連続した公開講座の開催 ・ 高大連携事業の実施 ・ 滋賀大学で科学しよう ・ 調査艇によるびわ湖体験学習 ・ 滋賀県理数大好きモデル地域事業 ・ こどもサイエンススクール事業 など。【滋賀大学】
- ・ 一般市民を対象とした教養講座・公開講座を実施している。 ・ 県内の小中高生を対象とした出前授業（大学訪問を含む）を実施している。【滋賀医科大学】
- ・ 本学では、総合博物館を平成9年度に設置し、研究活動の社会への還元を積極的に行っている。研究施設の公開については、附属図書館での資料の展示をはじめ、宇治キャンパスその他多くの研究施設の公開を行っている。科学技術に関するシンポジウムについても多数開催している。公開講座については、「京都大学市民講座」、「京都大学春秋講義」を毎年開催しているのはじめ、多くの部局でも部局独自に開催している。子供を対象とした講座については、「夏休みキッズサイエンススクール」を開催するなど多くの部局で開催している。高大連携事業については、滋賀県立膳所高校と連携協定を結び実施しているほか多くの部局で連携事業を実施している。理科教員を対象とした研修も研修員制度により実施している。このように、本学では様々な科学技術理解増進活動に関する組織的な取り組みを行っている。【京都大学】
- ・ 連続した公開講座の開催（地域環境問題を考えるための科学実験教室他） ・ スパ・サイエンススクール（SHH）に対する協力 ・ サインパ・トナシッププログラム（SPP）に対する協力 ・ 理科教員を対象とした研修の実施 ・ 出前講座の実施 ・ 現代GPによる小学生を対象とした先端技術を身近にする授業の実施【京都教育大学】
- ・ 美術工芸資料館の公開 学内共同利用施設である美術工芸資料館において、収蔵品の公開や独自の企画展、公開シンポジウムを開催している。
平成20年度： - 裂地（きれじ）を巡る - 美術工芸資料館コレクション展1など ・ 体験学習、公開講座、市民講座等の実施 小・中・高校生を対象として、本学の学問分野を活かした体験入学、ものづくり体験学習、科学技術教室を、主に夏休み期間中に実施している。また、一般市民を対象とした公開講座を実施している。
平成20年度： 体験入学 2008 大学の授業を体験してみませんか。創造性豊かなものづくり体験学習 2008 「大学一日体験入学」 - 科学の力で色や光を作ってみよう！ - 中高生のための科学技術教室 「京都ブランド創生講義 2008 ~ 知恵産業のまち・京都を目指して~」 「自然ふれあい講座『ミニ講演会とバレイショ掘り』」 「公開講座『現代農業技術の実際』中・上級」など ・ 高大連携等事業の実施 高大連携等事業として、高校・中学校・小学校に対して、講義・授業等を提供している。平成20年度：高校8校・中学校1校・小学校1校 ・ 京丹後市における講演会・相談会等の実施 京丹後市との「連携・協力に関する包括協定」（平成17年12月締結）に基づき、京丹後キャンパス地域連携センターを設置（平成18年9月）し、京丹後市との共催により市民への講演会や、京丹後市

内の事業所等を対象にした相談会を開催している。また、京丹後市にてインターンシップに参加する学生が主体となり、地域の子ども達のための勉強会を実施している。【京都工芸繊維大学】

- 大阪大学では、従来の産学連携とともに、大学の社会貢献活動の両輪として「社会学連携事業」を行うために、平成 20 年 4 月に「大阪大学 21 世紀懐徳堂」を設置した。大阪大学の社会学連携は、大学が持っている知識や文化的資源を広く市民社会に還元しつつ、市民社会と双方向的にコミュニケーションしていく活動であり、大阪大学 21 世紀懐徳堂では大阪大学の社会学連携事業の情報を集約し、分かりやすく市民の方々に広報してだけでなく、市民を対象とするさまざまな文化事業を展開していくとともに、市民からのご意見・ご要望を受け止め、大学のアクティビティへとつないでいくコーディネータの役割を果たすこととしている。また、大阪大学では、平成 19 年 8 月に総合学術博物館待兼山修学館展示場を開設した。本展示場は大阪大学の「知の集積」を、地域の方々や学内の教職員・学生に親しんでもらえるような「交流型ミュージアム」を目指しており、ミュージアム・カフェの設置、サイエンスカフェの実施、常設展及び企画展の実施を行っている。その他の部局においても、サイエンスカフェの実施、産学連携公開講座の実施、産業界へ向けた研究情報の発信や産業共用シンポジウムの開催、一般市民や社会人を対象としたセミナー及び講座の実施、学内開放・施設見学の実施、高大連携事業の実施、スーパーコンピュータを使用して課題解決を競うコンテストの実施及び地域の市民やNPO/NGOなど「ユーザー」からの依頼や相談に応じて研究・調査を行い、ユーザーの問題解決や社会活動をサポートする「サイエンス・ショップ」の実施を行っている。【大阪大学】
- 小・中学生を対象としたフレンドシップ事業「かがくをたのしもう」の実施・夏休み親子接着教室の開催・理科教育のスキルアップ講座の開催・高校生のためのひらめきときめきサイエンス「大学の研究室へようこそ」【大阪教育大学】
- 連続した公開講座の開催 講座名：「簡単ロボット製作で学ぶコンピュータの仕組みと制御」 対象：一般市民（中学生以上） 期間：平成 20 年 8 月 4 日（月）～8 月 6 日（水）（3 日間） 13:00～17:00 サイエンス・パートナーシップ・プロジェクトの実施（小学校への出前講座） 講座名：「小学生も挑戦！Jリーグロボットの製作」 対象：小学生 期間：7 月 16 日（水）、11 月 21 日（金）、11 月 27 日（木） いずれも 8:30～12:30 理科教員・技術科教員等を対象とした兵庫教育大学 単独主催の研修講座の実施 講座名：小・中学校教員のための初歩の電気実験入門 対象：初歩の電気実験に興味・関心のある小・中学校教員 実施日：8/5（火）10:00～15:00 講座名：石ころのおもしろさ - 岩石鉱物鑑定入門 - 対象：小・中学校教員 実施日：8/4（月）9:30～12:30 講座名：デンプンの消化実験を通して学ぶ科学的な見方、考え方 対象：小学校教員、中学校理科教員 実施日：8/12（火）9:30～12:30 講座名：選択理科のための分子生物学入門 対象：中学校理科教員、理科に関心のある小学校教員 実施日：8/6（水）9:30～12:30 講座名：教員のための分子生物学入門 - 遺伝子、バイオテクノロジーとは - 対象：高等学校生物教員、中学校理科教員、理科に関心のある小学校教員 実施日：10/20（月）10:00～15:00 10/21（火）10:00～12:00 講座名：電気と磁石の実験 対象：理科に関心のある小学校教員、中学校理科教員 実施日：8/5（火）9:30～12:00 講座名：「情報とコンピュータ」における新しい授業デザイン 2008 対象：中

学校技術科教員 実施日：8/27(水) 9:30～16:30 講座名：「技術とものづくり」における新しい授業デザイン 2008 対象：中学校技術科教員 実施日：8/26(火) 9:30～16:30【兵庫教育大学】

- ・「全体として」・高大連携特別講義（開放授業）の実施 高校生が、通常、大学で行われている講義を受講する。・高大連携特別講義（公開授業）の実施 県立高校生、市立高校生、私立高校生を対象として、夏季集中講義形式で実施する。人文科学系（文学部、国際文化学部、発達科学部）科目及び自然科学系（理学部、工学部、農学部、海事科学部）科目 講義を実施。・連続した公開講座の開催 全学的な統一テーマによる公開講座をはじめとして、学部・研究科の特色を生かした公開講座を開催している。・バーチャルミュージアムの公開 神戸大学百年史編集室および海事博物館では、資料を公開・活用するひとつのケースとして、「旧制姫路高等学校物理実験機器コレクション」および海事博物館所蔵海事資料を素材にバーチャルミュージアム（仮想展示室）を作成し、神戸大学のホームページで公開している。・サイエンスカフェの開催 科学者などの専門家と一般市民が、飲み物を片手に気軽に 科学などの話題について自由に語り合う、新しいコミュニケーションの場として開催している。科学や科学者を身近な存在として感じ、科学の成果や知識を楽しんでいただける場を目指している。・JST地域科学技術理解増進活動推進事業「地域ネットワーク支援」の実施（平成20年7月1日開催）兵庫県地域の自治体、博物館、大学、市民グループ、企業などの科学技術理解増進活動に関わる多様な主体を有機的につなぎ、新たな連携を生み出す「ひょうごサイエンス・クロスオーバーネットワーク」を構築し、これを通じて「サイエンスコミュニティ」（研究者と市民の双方向コミュニケーションが行われ、サイエンスが日常の生活に根づいた地域コミュニティ）の醸成を推進する。「工学研究科として」・工学研究科では、毎年初夏に公開講座を開講している。今年のテーマは、「地球環境時代の工学技術」で10名の講師により市民に科学技術の啓蒙活動を行っている。「農学研究科として」・年1回一般向けに公開講座を実施している。・全学の高大連携事業に学部として参加している。・各種シンポジウムを開催している。ヘルスバイオサイエンスシンポジウム 地域連携フォーラム 兵庫バイオテクノロジー研究会（研究科長が会長を務める。）「人間発達環境学研究科として」・「ヒューマンコミュニティ創生研究センター」において、自治体、学校、NPOとの連携を深め、学外研究員を委嘱して社会連携の強化を行っている。・「社会貢献レポート」をWEB上で公開 ・「のびやかスペースあーち」において、地域と密着した活動を行っている。・サイエンスカフェの開催 「人文学研究科として」・包括協定に基づく小野市立好古館の地域展開催への協力（平成19年10月20日～11月25日「河合地区の古代・中世遺跡と赤松氏」を共催）・連携協定に基づく朝来市と神戸大学による生野書院企画展開催（平成20年2月「朝来市生野町と神戸大学との地域連携事業展」朝来市生野町生野書院にて。）・高大連携事業の実施（平成18～19年度。文部科学省:資質の高い教員養成推進プログラム「地球文化を担う地歴科高校教員の養成」事業として、兵庫県立御影高校、東播磨高等学校等と連携を推進。）・丹波市教育委員会・丹波市春日町棚原区住民組織と連携した親子講座の開催（平成19年9月30日「ふるさと棚原をもっと知ろう親子講座」。）・大学コンソーシアムひょうご神戸社会連携助成事業によるワークショップ開催。（平成19年11月27日、平成20年2月15日。神戸大学、神戸女子大学、大手前大学3大学連合による「社会人向け水損史料ワークショップ」。） 実施予定分包括協定に基づく小野市と神戸大学による ・オーストリアウィーンでの展示会開催（平成

20年9月3日～10月29日「青野原俘虜収容所里帰り展覧会」。オーストリア国家文書館にて。)・神戸大学交響楽団の「俘虜収容所演奏会の再現」(平成20年9月3日、5日。オーストリア国家文書館にて。)
 「理学研究科として」・サイエンスセミナーの開催(高校生・一般人対象)・出前授業の実施(近隣の高校対象)・オープンラボの開催(高校教員と生徒に対し、本学の実験設備を無料で提供し、実習を行っている。)・高大連携数学交流セミナーの実施(高校理数系教員を対象とした研修会)「経営学研究科として」・社会人を対象としたシンポジウム(年1回)ワークショップ(年4回)公開講座の開催「経済学研究科として」・一般社会人も参加できるようにシンポジウムを公開した。「経済経営研究所として」・神戸商工会議所との連携で地域経営者・一般市民等を対象とした「神戸経済経営フォーラム」を毎年開催し、現代的な経済経営問題に関する理解増進に努めている。「都市安全研究センターとして」・オープンセンターの実施 毎年10月に区役所にて災害対応の講演会をセンター主催で市民向けに公開している。(半日) 毎年11月に神戸駅にて防災際・減災に対する展示やミニ講義を実施している。・オープンゼミナールの実施 年10回程度災害に関する講演会を開き、市民に公開している。講師は学内も、学外講師も交えている。「内海域環境教育研究センターとして」・理学部・理学研究科兼務教員として活動に取り組んでいる。・高校生向けの臨海実習・教員研修 小・中・高・特別支援学校等の教員向けの講義や実習・小学校の総合学習に対する実習場所の提供「分子フォトサイエンス研究センターとして」・理学部・理学研究科兼務教員として活動に取り組んでいる。「連携創造本部として」・産学連携活動の実施(企業を対象に本学教員による発表「一日神戸大学」等の開催を行っている。)**【神戸大学】**

- ・ 高大連携事業の実施 ・「青少年のための科学の祭典」・小学生対象の「夢化学 21世紀」・飛行機製作、飛行コンテスト・科学館との連携事業・連続した公開講座の開催**【奈良教育大学】**
- ・ 紫外線の影響と防御に関する国際シンポジウム 科研費基盤研究(A)による研究会「International Symposium:Effects of UV Radiation on Human Health、 and UV Protection」の開催《開催日：平成19年11月10日(土)開催場所：奈良女子大学構内佐保会館2階大ホール》紫外線の問題について、5名の講演と参加者間による議論がなされた。(参加者77名)・第7回共生科学研究センターシンポジウム「光がおりなす人類の未来」の開催《開催日：平成19年10月31日(水)開催場所：奈良女子大学S218教室》光化学に関する2名の講演と参加者間による議論がなされた。(参加者120名)・第11回紀伊半島シンポジウム「三重の水辺における人と魚のかかわり」の開催《開催日：平成19年12月16日(日)開催場所：三重大学資源学部大講義室》「三重の水辺における人と魚のかかわり」を標題に4名の講演と地域の自然保護管理についての議論がなされた。(参加者58名)・小・中・高校生向け「野外体験学習」の実施《開催日：平成19年8月10日(金)～11日(土)開催場所：奈良女子大学共生科学研究センター分室(東吉野村)》小中高校生を対象に森林の役割を学び、体験実習として檜の枝打ちや河川源流に住む生物の観察を実施した。**【奈良女子大学】**
- ・ 「青少年のための科学の祭典 - 2007 おもしろ科学まつり - 和歌山大会」小中学校教諭及び市民の有志と協力して科学に関する実験、観察や工作を多数準備し、会場を訪れる児童・生徒及び市民に、それらを体験することで科学に親しんでもらう催し。

「実験工作キャラバン隊」地域の小・中学校、子ども会などの要請を受けて出かけていき、子供たちに実験・観察・ものづくりの指導をする。高等学校への出前講義 学生自主創造科学センターが実施する自主演習の取り組みのために、若手教員を中心としてシステム工学部より各学科1名のセンター員を出している。システム工学部では、オープンキャンパスなどの機会を見て、実験・実習などの体験学習を実施している。ジョイントカレッジ研究科教育部門において、「科学教員養成コース」を設置し、科学の基礎的な素養と伝達能力の獲得を目指す。【和歌山大学】

- ・ 全国共同利用施設鳥取大学乾燥地研究センターのアリドドームの一般公開・展示室の平日公開 大学の研究成果・話題となっている問題等をわかりやすく講演するサイエンスアカデミー（毎月2回） 子どもとその保護者を対象とした夏休みの工作教室、ものづくり教室等の催しを行っている。 医学部で、中学生を対象に「キッズ外科手術体験セミナー」を行っている。 工学部で小学生を対象とした「出張おもしろ実験室」、中学生・高校生を対象とした各種の出前講座を開催している。 生命機能研究支援センター主催で、高校生等を対象とした講演会・体験学習等を行っている。【鳥取大学】
- ・ （全学）島根大学ミュージアムの設置及び常設展示開館、（全学）連続した公開講座の開催（例：島根の科学、健康に関する講座等）（全学）島大サイエンスカフェの継続実施（22回開催）（教育学部）理科教員を対象とした研修（高校生物）の実施、（教育学部）子ども達を対象とした科学教室「びびっと広場」の開催、高大連携事業の実施「スーパーサイエンスハイスクール事業（生物資源科学部他）」及び「サイエンス・パートナーシップ事業（教育学部）」【島根大学】
- ・ 連続した公開講座の開催 ・高大連携事業の実施 ・高等学校理科教員との研修の実施 ・小中高校生を対象とした理数系講座 科学先取り岡山コース の開催 学校の授業では学ぶことのできない高度で発展的な内容を大学キャンパスやWebでわかりやすく指導し、将来科学者を目指し、世界で活躍できる生徒たちを育てることを目的とする。 ・「科学大好き岡山クラブ」の実施 科学に卓越した意欲や能力を持つ中・高・大学生に、通常の学校の課程の枠にはとらわれないカリキュラムを与え、段階をおった教育により、伸びる素養を持つ人の才能をさらに伸ばすことを目的とする。【岡山大学】
- ・ (学術室) 大学博物館を設立し、一般に公開している。 日本学術振興会の「ひらめき ときめきサイエンス」を利用して、科学研究費補助金の成果を中学生・高校生に紹介している。(理学研究科) 教育シンポジウムの開催 理工フェアの共催 高等学校訪問による模擬授業を実施 一般、高校生を対象にした公開授業を実施 SSH(スーパーサイエンスハイスクール)との連携 (文学研究科) 一般人を対象に以下の公開講座を実施している。・大学院文学研究科公開講座「21世紀の人文科学」講座 年1回(3~4講座) ・「地域アカデミー」(広島大学歴史文化講座による公開講座) 年2回(夏・冬) 「文藝学校」(広島大学欧米文学語学・言語学講座と日本・中国文学語学講座による公開講座)年1回(秋) (生物圏科学研究科) 広島大学総合博物館サテライト館の開設 公開講座の実施 (総合科学研究科) 一般人を対象に以下の公開講座を実施している。・楽しい数学と情報の世界 (国際協力研究科) 一般人を対象に以下の公開講座を実施している。・済発展と国際協力 (放射

光科学研究センター) 産業界向け研究会・放射光利用研究会 広島大学放射光科学研究センター利用促進協議会 2004/ 2/25、 3/10、 11/11 ・リエゾンフェア(広島) 放射光を用いた精密分析技術 広島大学産学連携センター 2005/10/18 ・リエゾンフェア(広島) 放射光を用いた精密分析・加工技術 広島大学産学連携センター 2006/11/ 8 一般市民向け公開講座 ・市民公開講座:「大人のための科学講座」 広島市こども科学博物館 2005/11/ 5 ・市民公開講座:「物理学の最前線」 広島大学理学研究科 2005/ 8/ 1、 2006/ 8/ 1 ・放射光科学公開講座:「ためして放射光」 日本放射光学会 2007/ 1/12 ・市民公開講座:「物理学の最前線」 広島大学理学研究科 2007/ 8/ 1 ・市民公開講座:「大人のための科学講座」 広島大学理学研究科 2007/ 8/ 1 ・東京イブニングセミナー:「放射光科学入門」 広島大学産学連携センター 2007/ 8/31 ・市民公開講座:「21 世紀を支える放射光科学」 広島大学理学研究科・放射光科学研究センター 2007/ 9/30 出前授業(放射光科学分野) ・広島修道高校 広島大学理学研究科 2005/10/18 ・広島市安古市高校 広島大学理学研究科 2006/10/11 ・広島県立広島井口高校 広島大学理学研究科 2007/ 6/ 8 (宇宙科学センター) 東広島市教育委員会と連携し、生涯学習まちづくり出前講座に2つのメニューを提供(総合博物館) 企画展の実施 公開講演会、野外観察会の実施(自然科学研究支援開発センター) 一般人を対象に以下の公開講座を実施している。 ・(低温・機器分析部門)ヘリウム液化施設の公開と液体窒素や液体ヘリウムを用いた演示実験の開催 ・(アイソトープ部門)「目で見る放射線実習」の公開実験を開催(保健管理センター) 他大学生、一般市民を対象とした公開講座の実施(エクステンションセンター) 受講者拡大に向け、担当学部と連携して広報活動(パンフレット(冊子)作成、HP 掲載等)を行っている。平成 20 年度も「広島大学公開講座の新聞広告」を行った。高大連携事業 においては、高校訪問を積極的に行っている。 ・広島大学公開講座 ・広島商工会議所との連携による広島夕学講座(ビジネス講座) ・高校生を対象とした公開講座(高大連携事業)(工学研究科) 高校生を対象とした公開講座(高大連携事業) 口頭学校訪問による模擬授業 理工フェアの共催 市民向け公開講座 小・中学生を対象とした企画(海の自然の家など)の開催(医歯薬学研究科・保健学研究科) 高等学校訪問による模擬授業を実施(医学部) SSH(スーパーサイエンスハイスクール)との連携(原爆放射線医科学研究所) 公開講座の開催 中学、高校の研修旅行生を受け入れ、原爆及び放射線による人体への医学的影響等について講義を実施(年平均 5 回)【広島大学】

- 商品資料館の一般開放 ・埋蔵文化財資料館で公開授業 ・総合図書館及び埋蔵文化財資料館での常設展示、特別展示 ・小学 5 年生から中学生を対象とした夏休みジュニア科学教室の開催 ・高校生を対象とした出前講義の開催 ・高校生を対象とした体験入学の実施 ・地域住民・学生を対象とした「オープンキャンパス」、「サタデーカレッジ」、「サマースクール」、「サイエンスワールド」の開催。公開講座、開放授業の実施 ・食育、環境学習を目的とする「里山環境プロジェクト」の実施 ・地元の青少年科学館(ソラール)主催の祭典「おもしろサイエンス in ソラール」へ出展 ・日本学術振興会主催「ひらめき ときめきサイエンス」に採択され、実施予定 ・内閣府主催「チャレンジキャンペーン～女子高生・学生の理工学部分野の選択～」の協力団体として登録し、啓発中 ・科学技術振興機構の高大連携事業「SSHスーパーサイエンスハイスクール」に採択され、指定校に対して連携授業を実施している。(平成 19 年度から 5 年間の予定) ・科学技術振興機構の「SPサイエンスパートナーシッププロジェクト」の採択により、地元中学で授業を解説している。 ・科学技術振興機構の「地域科学技術理解増進活動推進事業(長州科楽

維新プロジェクト)」の採択が決まり県内の科学普及のためにネットワーク作り、人材育成、教材作り等を進める。・文部科学省の「専門職大学院等教育推進プログラム(ちやぶ台型ネットによる理科教育支援計画)」の採択により小中学校現職教員を対象とした既設の「理科実験講座」を改編、拡充し、現職教員、大学教員、教員志望学生等が参画する教育支援ネットワークの構築による日常的継続支援を行っている。・「山口大学環境サテライトオフィス」を宇部市との包括連携の一環で開設し、今後体験教室、学習講座を開催予定。【山口大学】

- ・ 市民大学科学講座の開催・アーツ&サイエンスカフェの開催・県との連携による10年経験者研修等の実施・JSTイノベーションサテライト徳島との連携によるサイエンスカフェの開催・高大連携事業の実施(体験授業・出張講義等)・高校生向け遺伝子組換え実験講習会の開催・県内施設におけるファミリーサイエンス教室(安全な放射線の体験)の実施・小学校、中学校を対象とした夏休みの公開講座の開催・工学体験大学講座の開催・「科学体験フェスティバル in 徳島」の開催・出前科学実験講座の実施・各自治体主催の科学フェスティバルへの出展参加・エンジニアリングフェスティバル【徳島大学】
- ・ サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト「科学技術力と論理的思考力を育てる科学実験研究の体験」大学開放推進事業「やさしい環境科学実験～光触媒と活性炭による浄化の機構を探る～」【鳴門教育大学】
- ・ 香川大学博物館の開設・工学部オープンキャンパス・農学部オープンキャンパス【香川大学】
- ・ 小・中学生を対象とした「科学・体験フェスティバル」の開催(工学部)・小学生(4、5、6年生)とその保護者を対象とした実験体験教室「親子で楽しむ科学実験-君もミニ博士になれる!-」の開催(理学部)・中学生を対象とした「おもしろ理科教室」の開催(教育学部)・昆虫展の開催(農学部)・スーパーサイエンスハイスクールに指定されている県立松山南高等学校への先端科学分野の実験などの提供や授業の支援・スーパーサイエンスハイスクール出身者の進学先の1つとして、スーパーサイエンス特別コースの設置【愛媛大学】
- ・ 平成17年度から実施している高知大学研究顕彰表彰制度には、大学院生研究奨励賞が設けられており、独創的・個性的研究を行う大学院生を対象とし研究奨励費を授与できることとしている。・一部の部局において、定期的を開催するKMS Research Meetingの中で、独自に若手研究者に対する表彰制度を設けており、受賞者には助成金を交付している。・従前の授業料免除制度のほかに、OB・OG再チャレンジサポートプログラムによる社会人等の大学院生に対する授業料免除制度を設けている。・大学院総合人間自然科学研究科(博士課程応用自然科学専攻を除く)において、従来の大学院の合格を申請要件とせず、入学(合格)前予約採用候補者の募集を行っている。・授業料免除について、平成17年度より半額免除方式に変更し、適格対象者の幅を広げた。・本学の国際交流基金において、優れた大学院生を研究発表を目的とし審査の上海外に派遣している。また、協定等に基づき外国の大学に留学(3ヶ月~1年間)する学生に対して、審査の上奨学金を支給している。・本学の国際交流基金において、人物・学業等に優れ、経済的援助が必要と認められる私費外国人留学生に審査の上奨学金を支給している。・一部の部局で

は国際交流協定締結校の大学院修士課程の学生を受入れ、研究指導（財政的支援も含む）を実施している（よさこいプロジェクト）。【高知大学】

- ・ キャリアアップ理科教育講座 131（教員研修） ・ 高校生向け卒業研究発表会 ・ 公開講座「理科実験大好きスクール」 ・ 高大連携事業（高校招待事業） ・ 教科等研究会中学校理科教員研修（教員研修） ・ サイエンスワールド（科学教室） ・ 選択理科における出前授業（出前授業） ・ おもしろ科学実験（出前実験） ・ オープンキャンパス（展示と施設公開） ・ わくわくサイエンスキッズ（出前実験） ・ Jr ・ サイエンス&ものづくり（科学教室） ・ SPP事業（サイエンスパートナーシップ） ・ その他、理科教育関係の研究発表会の指導助言など多数【福岡教育大学】
- ・ 平成 19 年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に提案し採択された「世界へ羽ばたけ！女性研究者プログラム」事業の一環として、女性研究者の活動の裾野を広げることを目的とした、「小・中・高生向けの出前授業及び科学セミナーを実施した。 ・ 総合研究博物館の一般公開（常設） ・ 開学記念行事等にあわせた貴重資料等の公開、研究施設の開放 ・ 公開講座の実施（平成 20 年度 40 講座開設予定[H20.7.1 現在]、小・中・高生対象講座含む。） ・ 高等学校等への出前講座 ・ 自治体等と連携した体験学習・科学教室の実施 ・ 高等学校化学教員を対象とした研修会【九州大学】
- ・ 公開講座の開催 地域における生涯学習の機会の一つとして、教育と研究の成果を社会に開放し、生活上、職業上の知識、技術及び一般的教養を身につけるための学習の機会を提供するため、一般向けの九州工業大学公開講座を開講している。
免許法認定公開講座の開催 高等学校教諭一種等の免許状を取得している学生や一般社会人を対象として、新たに「情報」等の教科が取得できる講座を毎年開講することにより、本学が有している技術を社会へ発信している。 北九州市民カレッジへの参画 北九州市教育委員会（北九州市立生涯学習総合センター）が主催の生涯学習事業である北九州市民カレッジの実施に参画している。 出前講義の実施 青少年の科学技術離れ・理科離れ解消の一助として出前講義を主として福岡県内の高等学校及び高等専門学校、北九州市内及び福岡市内の予備校、北九州市内及び飯塚市内の小・中学校を対象に平成 8 年度より実施している。平成 19 年度の実績は以下のとおり。 前期 25 件（小学校 5 件、中学校 5 件、高等学校 15 件） 後期 43 件（小学校 5 件、中学校 0 件、高等学校 38 件） 情報技術セミナーの開催 一般社会人を対象とした情報技術系に関するセミナーを毎年開催することにより、本学が有している技術を社会へ発信している。 展示や研究施設の公開 オープンキャンパスおよび北九州学術研究都市「ひびきの祭」での研究室の公開やロボット等の展示を行っている。 夏期集中講義の開催 工学研究科社会人プログラム・スーパーティーチャーズカレッジ「現代物理学基礎徳論」 ジュニア・サイエンス・スクールの開催 小学生から高校生を対象に行う実験体験学習企画（年間 10 回開催予定） 今年度 2 回開催済 実施決定分（予定）8 月～10 月 5 回 天文講演会開催（11 月 1 日） 中学校、高等学校の大学訪問・見学 理科教員を対象とした研修の実施 福岡県高等学校化学部会研修会（7 月） 中学理科教員サークル研修（7 月） スーパー・ティーチャーズ・カレッジ（8 月） 地域の学校教員を対象として理工系学問分野の相互関連に重点を置いた最先端科学技術についての講義・実習プログラムを提供する講座 企画事業への出展 青少年のための科学の祭典（8 月） 教育委員会（県・市）からの依頼事業 サイエンスチャ

レンジスクール(7月) スーパーサイエンスセミナー(7月~8月) 高大連携事業 高等学校とのスーパーサイエンスハイスクール事業による連携 高等学校のサイエンスパートナーシップ 福岡県教育委員会によるふくおかスーパーハイスクール事業による連携【九州工業大学】

- ・ 各種公開講座の開催 ・ 研究施設(海洋エネルギー研究センター等)の公開 ・ 高大連携を進めるための出前講義の実施 ・ リフレッシュ理科教室の開催【佐賀大学】
- ・ 高大連携事業による高校生に対する公開講座及び出前授業の実施 ・ 高大連携事業とは別に、高校生を対象とした出前講座を実施 ・ 独立行政法人日本学術振興会事業「平成 20 年度ひらめき ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~ KAKENHI」により、中高生を対象とした体験学習を実施 ・ 県内外の高校が実施するサイエンスパートナーシッププロジェクト(SPP)、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の積極的受入れ ・ 水産学部附属練習船の寄港地における「移動オープンキャンパス」の実施 ・ 展示や研究施設の公開 ・ 子どもたちを対象とした出前講座の実施 ・ 小学校高学年を対象とした公開講座の開催 ・ 熱帯医学ミュージアムにおける、中高生の体験学習の一環としての講義や施設見学の受入れ ・ 「ながさき水産科学フェア」の開催 ・ 「長崎出島サイエンスカフェ」の開催 ・ 小中高生を主たる対象と考えた参加体験型イベント「サイエンスワールド」の実施【長崎大学】
- ・ 主なものは、下記のとおり ・ オープンキャンパス」を開催：研究室の公開及び模擬講義等を行う(平成 20 年度 8 月 5 日に開催) シンポジウム ・ 「第 5 回熊本大学熊本フォーラム」の開催 ・ 「第 3 回環黄海産学官連携大学総(学)長フォーラム」の開催 公開講座等の開催 ・ 連続した公開講座を平成 20 年度は、17 講座開講 ・ テレビ公開講座(平成 19 年度は、5 回放送) ・ 知のフロンティア講座の開催(政策創造研究教育センター) (平成 19 年度は下記の演題で 3 回開催) 1. 対人関係づくりの社会心理学「人生をよりよく生きるノウハウ探し」 2. エーゲ海のライフスタイル - 食と住の今昔 - 3. ぐっすり眠っていますか? ~ 脳科学からみた眠りの世界 ~ ・ 都市政策研究会「地域から考える地方分権改革と道州制シンポジウム」の開催(政策創造研究教育センター) ・ 政策フォーラム「地域医療を考える」開催(政策創造研究教育センター) ・ 政策創造研究教育センタープロジェクト研究報告会 ・ 東京リエゾンオフィスイブニングセミナー(平成 19 年度は、下記の演題で 3 回開催) ・ 産学官連携と MOT ・ 生命科学分野における拠点研究の新展開 ・ 地域維持のための理論と実践 ・ 体験講座「遺伝子と仲良くなろう」の開催(生命資源研究・支援センター) ・ 市民公開講座「有明海・八代海を科学する」の開催(沿岸域環境科学教育研究センター) ・ 沿岸域環境科学教育研究センター講演会の開催(沿岸域における生物生息環境の変遷と保全に関する先端科学技術研究) ・ 文学部考古学研究室学術会議講演会の開催(中国福建省の考古学) ・ 薬用植物園勉強会(薬用植物園薬用植物観察会、傷寒論を読む会、初級漢方とハーブ) 青少年への学習支援事業 ・ 「ひらめき ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~ KAKENHI」: 中高生を対象とした、独立行政法人日本学術振興会の科学研究費補助金による研究成果の社会還元・普及事業(自然科学研究科) ・ 「テクノ・サイエンスキッズ」: 小学生・中学生及びその保護者を対象に、理科離れ阻止とものづくりを主体とする工学への関心を持たせることを目的として開催(自然科学研究科) ・ 小中学生及び現職教員を対象に、夏休みの自由研究相談を開催(教育学部、理学部、工学部) ・ 青少年のための科学の祭典・熊本大会 2008: 科学の実験

や科学工作など、子どもたちが自ら参加し楽しむことのできるたくさんの実験ブースを出展し、自然科学の面白さを体験していただく事業（自然科学研究科） ・ くまもとのづくりフェア：幼稚園児・小学生を対象とした、ものづくりへ興味を持ってもらうための事業（教育学部） ・ 一般公開実習「海のいきものを知る～天草の海の神秘～」：高校生並びに教員を対象として、ウミホタルの採集と観察や、実習船によるプランクトンの採集と観察等を行う。（沿岸域環境科学教育研究センター） ・ 夢科学探検：小学生から一般の方を対象とした体験学習（理学部、工学部、自然科学研究科） ・ 高校への出前事業：高等学校に出向いて、本学の各先生の専門的な内容をわかりやすく説明するもの（文学部、教育学部、理学部、医学部保険学科、薬学部、工学部） 高大連携事業 ・ 「スーパーサイエンススクール（SSH）」事業として、SSH に指定されている高校を理学部、薬学部で受け入れ授業を行う。

その他 ・ 小・中学校理科教員のための地学及び環境教材開発とその教育実践（教育学部） ・ 理学部で、「特定地域教育支援室」を設置 ・ e-Learning システムを用いた英語学習支援（大学教育機能開発総合研究センター）（薬学部）【熊本大学】

- ・ 大分舞鶴高等学校とのSSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）事業実施 ・ 小学生を対象とした公開講座の開催 ・ 小学生を対象とした科学と技術のイベントの開催 ・ 夏休み子どもサイエンスの開催 ・ 大人のための科学講座「サイエンス交差点」の開催 ・ 理科支援員等配置事業による教員の小学校派遣を実施 ・ 近隣小学校からの依頼によるキャンパス内地層見学会開催 本学では、昨今の若者の理科離れを防ぐため、小学生の段階から理科や科学に興味を持ってもらう様々なイベントを開催している。 また、大分舞鶴高校が採択されたSSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）事業に、本学教員を派遣し高校生の研究を指導する等協力している。 さらに平成19年度は、新たに次の取組を実施した。 保護者を対象とした大人のための科学講座「サイエンス交差点」（JST支援事業）を実施し、6講座に約150名の参加があった。 文部科学省の理科支援員等配置事業として、大分県内の小学校に教員を派遣し、理科支援員として、理科に関する特別授業を行った。【大分大学】
- ・ 科学夢ロマン事業（宮崎県との共催）として、次の3つの企画を展開 1)「宮崎サイエンスキャンプ」 2)「自然科学指導者講座」 3)「サイエンスコンクール」 宮崎科学技術館に宮崎大学コーナーを設置 公募型「卒業研究テーマ」の実施 みやざき夏期大学（公開講座）の実施 中・高・大との連携事業の実施 高大連携の実施 シンポジウム「e-learning みやざき」の開催 高校生を対象とした体験入学（テクノフェスタ）を開催 工学部テクノ祭りの実施 大学博物館の開設及び展示 青少年のための科学の祭典 素粒子の世界を拓くー湯川秀樹・朝永振一郎生誕百年記念展 展示や研究施設の公開 連続した公開講座の開催【宮崎大学】
- ・ 【総合研究博物館】常設展示室を設置し、特別展・研究交流会・市民講座・自然体験ツアーを開催している。 ・ 【多島圏研究センター】月に1回、関係のある種々の分野について研究発表会を開催している（新聞等への掲載によって広報し、広く一般にも案内を行っている）。 ・ 【出前授業】高校生に大学における高度な教育・研究に触れる企画を提供することにより、大学に対する理解を深めてもらうことを目的とし、本学から教員を高校へ派遣し実施している。平成19年度は、延べ39校で出前授業を行った。 ・ 【公開講座】 専門職向けリカレント講座 社会人向け基礎

教養講座 青少年向け基礎教育講座に区分し、地域住民に学習の機会を提供する目的で実施している。平成 19 年度は、43 講座を開催した。・【公開授業】本学学生が受講している正規の授業科目の一部を一般市民に開放し、高等教育レベルの高度で体系的・先進的な内容を提供する目的で実施している。平成 19 年度前期は延べ 167 名、後期は延べ 147 名が受講した。・【シニア短期留学】全国のシニア（50 歳以上）を対象にした生涯学習教育プログラムで、鹿児島の歴史や文化等を学んでいただくため、本学とシニア情報新聞フロンティアエイジ及び（株）日旅九州エンタプライズの 3 者共同で実施している。平成 18 年度は 12 名、平成 19 年度は 20 名の参加があった。・大学祭期間中における大学祭実行委員会企画以外の学部企画を教育学部と理学部で実施した。教育学部では、児童・生徒及び一般市民を対象とした文化的イベントを各専修が持ち寄り、プロジェクト委員会を組織して開催した。理学部では、学科を横断する共通企画として、各研究室の活動内容の紹介を一般向けに行った。【鹿児島大学】

- ・ サイエンス・パートナーシッププロジェクトの教育活動 ・ひらめき ときめきサイエンス事業の実施【鹿屋体育大学】
- ・ 一般公開講座の開催（平成 19 年度 24 講座） 公開授業の実施（平成 19 年度 76 講座） 高大連携事業の実施（平成 19 年度 96 講座） 高校生のみを対象とした公開講座、出前授業、公開授業。 展示や研究施設の公開 工学部研究紹介展示、サンシン演奏ロボットの展示・演奏（西原町産業まつり、オリオン親子サイエンスツアー）、沖縄の産業まつりへの出展。 オープンキャンパスにおける研究・教育内容のパネル展示や研究室の公開、体験授業等。 農学部亜熱帯フィールド科学教育研究センターによる一般市民を対象としたワークショップの開催（研究施設の公開やフィールドワーク等） 科学技術に関するシンポジウム 産官学泡盛学キックオフシンポジウム、防災・環境シンポジウム等。 ひらめき ときめきサイエンスの開催 高校生を対象とした科学技術補助金による研究成果の社会還元・普及の一環として開催。【琉球大学】
- ・ 地域住民を対象としたシンポジウム・コロキウム・公開講座の開催 ・年 4 回程度のサイエンスカフェの開催 ・地元中学校での出前授業 ・中高生のための科学セミナーの開催【総合研究大学院大学】
- ・ 公開講座の実施（一般市民を対象に、最先端技術について講演。大学がもつ専門的、総合的な教育・研究機能を地域社会に開放し、生涯学習の機会を広く提供。H20.6 一般市民向け 3 講座実施、H20.7 企業向け 2 講座実施。） ・一日大学院の実施（オープンキャンパスの際に、地元の中学 1 年生、高校生、高専生を対象に、科学の面白さを実感・体験してもらうことを目的として実施。） ・サマースクールの実施（研究者や高度技術者を目指す方を対象に、大学院レベルの教育・研究に直接触れ、科学の面白さを体験してもらおうと毎年夏に実施。H20.8 開催。大学生、大学院生、社会人対象。） ・「先端科学ふれあい講座 おもしろサイエンス」の実施（地元の能美市民を対象に、本学の教員が研究の最先端を分かりやすく講演。） ・出張オープンキャンパス事業（大学コンソーシアム石川）の実施（「大学コンソーシアム石川」の事業で、県内の高等教育機関（大学、短期大学、高等専門学校）と高等学校が連携し、大学等の教員が高等学校に出向いて、模擬授業等を実施。本学では、福井県の高等学校に出向き、模擬授業を実施（H20.7.9）） ・サマー・サイエンスキ

キャンプの実施（高校生を対象に、（独）科学技術振興機構主催の科学技術体験合宿プログラム「サマー・サイエンスキャンプ 2008」を本学で実施。H20.8.20-8.22。）・大学見学会の開催（広く開かれた大学を目指し、社会との連携を深めることを目的として、広く一般の方の学内見学を受け入れている。）【北陸先端科学技術大学院大学】

- ・ NAIST 東京フォーラム、NAIST 産学連携フォーラムの開催、国立科学博物館との共催による特別展示の実施、「イノベーション・ジャパン 2007」、「第 6 回産学官連携推進会議」等への出展。・奈良県及び生駒市等の小・中・高校との連携により、SSH、SPP等の事業の実施（高校生、大学生・理科教諭等を対象とした各種研修を含む）。・一般市民を対象としたオープンキャンパス（子供向けの科学の体験プログラムを含む）や全 8 コマの公開講座の開催。・本学の取り組む先端研究の成果を紹介するネット上のバーチャル博物館「NAIST 先端科学館」の開設。【奈良先端科学技術大学院大学】
- ・ 展示や研究施設の公開 共同研究の成果を常設展示や企画展示（平成 20 年度は 3 回）常設展示に関連したミニ企画展示（平成 20 年度は 5 回）にて公開している。・科学技術に関するシンポジウム 共同研究などに係る研究成果を一般むけに報告する「歴博フォーラム」「映像フォーラム」を開催している。・子どもたちを対象とした出前講座、夏休み科学教室の開催 小・中学校、高校を対象とした展示見学のガイダンス、教育プログラムの実施。小・中学生を対象とした本館展示解説を中心とする「歴博探検」、夏季休業中の「自由研究相談室」「歴史体験コーナー」の設置。・高大連携事業の実施 高校教員を対象とした博学連携研究員を募り、本館利用を中心とした高校生歴史研究体験プログラムの共同開発。「大学のための歴博利用の手引き」を利用した大学生施設利用の支援。インターンシップ、博物館実習生の受入。【人間文化研究機構（国立歴史民俗博物館）】
- ・ 年 3～4 回、日文研の教員・外国人研究員による研究成果の発表と日本研究の普及を目的とした学術講演会を開催している。これらの講演会は、インターネット放送で視聴可能としている。（聴講者一般募集） 毎年 6 月には、東京で総合テーマ「日本文化を考える」と題して講演会を行っている。（聴講者一般募集） 来日中の外国人研究者による研究発表と交流の場の提供を目的に毎月日本文化に関連したテーマで「日文研フォーラム」を開催している。（聴講者一般募集） 毎年 11 月頃、日文研の各施設を一般公開し、教員・外国人研究員による講演や、研究資料・所蔵貴重図書等の展示により日頃の研究活動の紹介を行っている。 日文研内外の日本研究資料や日文研教員の研究成果をデータベース化し、Web で公開している。 年 1 回（8 コマ）日文研の教員が隣接する小学校へ出向き、生徒に分かりやすい内容で学問の一端を紹介する授業を行っている。【人間文化研究機構（国際日本文化研究センター）】
- ・ 地球研フォーラム、市民セミナー、地域セミナーの開催【人間文化研究機構（総合地球環境学研究所）】
- ・ 「学術研究とは？」、「大学共同利用機関って何？」について、ホームページに掲載している。・一般市民を対象とする自然科学研究機構シンポジウムを年 2 回開催している。【自然科学研究機構（本部）】

- 国立天文台ではほぼすべての地区で、天文学や科学全般の普及を目的に施設公開を行い、三鷹、岡山、石垣島の各地区においては天体観望会を実施した。また、各地区において特別公開・各種講習会・講演会の開催、生涯学習や教育・普及に関する諸事業を行ったほか、三鷹ネットワーク大学や公開天文台ネットワーク（PAONET）等の対外協力活動を行った。特に石垣島天文台においては、月間平均 1000 人の見学及び観望会参加者があり、天体の観望のほかに現代天文学の最新状況・国立天文台の活動などについての普及に努めた。このほか、三鷹キャンパスに新たに完成した 4 次元デジタル宇宙立体ドームシアターの本格運用を開始した。【自然科学研究機構（国立天文台）】
- 核融合科学研究所では、地球環境やエネルギー問題及び核融合研究の重要性について、一般市民の理解を得るため「地球温暖化と科学技術」などをテーマとした市民学術講演会を 2 回開催し、24 会場で市民説明会を開催した。また、研究所の活動を一般に分かりやすく紹介するため、研究所紹介ビデオ「星からきたエネルギー」を新たに制作した。更に、広報誌「NIFS ニュース」を発行し、研究所の活動状況について情報発信を行うとともに、核融合研究の理解増進のため、パンフレット「エネルギー問題解決に向けた核融合研究と核融合科学研究所の今後の計画」を改訂した。【自然科学研究機構（核融合科学研究所）】
- 一般公開の実施 ・市内中学生を対象とした体験実験（サイエンスレンジャー）の実施 ・一般市民を対象とした講演会の実施 ・市内の小・中学校理科教員を対象としたセミナーの実施 ・スーパーサイエンスハイスクール指定校を対象とした研究室での研究体験、所内セミナーの公開等の協力活動 ・中学生を対象とした職場体験の受入 ・所内見学の受入【自然科学研究機構（基礎生物学研究所）】
- 一般公開の実施 ・市内中学生を対象とした体験実験（サイエンスレンジャー）の実施 ・一般市民を対象とした講演会の実施 ・市内の小・中学校理科教員を対象としたセミナーの実施 ・スーパーサイエンスハイスクール指定校を対象とした研究室での研究体験、所内セミナーの公開等の協力活動 ・中学生を対象とした職場体験の受入 ・所内見学の受入 ・一般向け広報誌（せいりけんニュース）の刊行【自然科学研究機構（生理学研究所）】
- 一般公開の実施 ・市内中学生を対象とした体験実験（サイエンスレンジャー）の実施 ・一般市民を対象とした講演会の実施 ・市内の小・中学校理科教員を対象としたセミナーの実施 ・スーパーサイエンスハイスクール指定校を対象とした研究室での研究体験、所内セミナーの公開等の協力活動 ・中学生を対象とした職場体験の受入 ・所内見学の受入【自然科学研究機構（分子科学研究所）】
- 緊密な連携及び協力を行う岡崎 3 機関の研究所に準じる。【自然科学研究機構（岡崎共通研究施設）】
- 公的資金により支えられる研究機関として、社会への説明責任と社会への貢献という観点から、共同利用で行われている研究を始め、技術開発を含めた研究活動や研究成果について、機構のホームページやメールマガジンの発行を通して積極的に情報を発信するとともに、一般公開を含む研究施設の公開も積極的に実施している。また、機構の研究活動等で得られた知見を社会と共有し、若者の科学力増進や科学

一般の理解を広めることを目的として、公開講座や学生の実習受入などを実施している。【平成 19 年度における主な取組】《施設公開》・一般公開「テーマ：宇宙・物質・生命」(平成 19 年 9 月 2 日：来場者：約 3、800 人)・事前予約による団体見学(平成 19 年度来場者：4、742 人)・その他の一般見学(平成 19 年度来場者：3、496 人)・JAEA と協力した J-PARC の見学者受入(平成 19 年度見学者数：429 件、7、167 人)《その他の取組み》・中学生以上を対象とした「公開講座」を開催(テーマ：「質量 - 加速器 - タンパク質」) 1 日目(平成 19 年 10 月 27 日)：108 人 2 日目(平成 19 年 11 月 3 日)：75 人・中学校、高等学校からの学校単位での申し込みによる実習受入(3 件、83 人)・高校生を対象とした、公募による「ウインターサイエンスキャンプ・最先端の加速器による、素粒子から身近な物質までを探る研究を体験しよう！(JST 主催)」の実施(平成 19 年 12 月 25 日～27 日)・KEK の研究活動や学問分野の知的好奇心の喚起、研究者の職業観などについて、幅広く一般に認知してもらう取組みの一環として、KEK の教員が出身高校や中学、地元の公民館などに出向いて講義を行う出張講座を企画し、平成 19 年度は高等学校 2 校に出向いて素粒子物理学に関する講義を実施した。・高校生が、大型素粒子実験装置 Belle を実際に使ったデータ収集や、過去に収集したデータの解析など、研究者の現場を 4 日間(8/30～9/2)体験する企画「ベル・プリュス」を、奈良女子大学との共催で、大阪大学、東京大学など 9 大学の協力を得て開催。【高エネルギー加速器研究機構(本部・その他)】

- ・ 南極との TV 会議の実施 ・ 展示室の公開 ・ 見学者の受け入れ ・ 学校施設への研究者派遣 ・ SPP、SSH への協力 ・ 博物館展示への協力 ・ 展示会出展 ・ 講演と映画の会開催【情報・システム研究機構(国立極地研究所)】
- ・ 電子博物館の開設 ・ 研究所一般公開(年 1 回) ・ 公開講演会(年 1 回) ・ 中学生、高校生のインターンシップ受入れ【情報・システム研究機構(国立遺伝学研究所)】

(出典) 各法人事業報告書により文部科学省が作成した資料から